

基本戦略の概要（案）

【前段階】 国外未発生／国内未発生時 （フェーズ 1、2、3）
目的：
<ul style="list-style-type: none"> 1) 国際的な連携のもとに発生の早期発見につとめる 2) 発生に備えて体制の整備を行う
戦略：
<ul style="list-style-type: none"> 1) 家きんにおける高病原性鳥インフルエンザの防疫対策を実施する 2) 抗インフルエンザウイルスやプレパンデミックワクチンの備蓄等を行う 3) 医療体制の整備等を行う

【第一段階】 国外発生／国内未発生時 （フェーズ 4 A、5 A、6 A）
目的：
<ul style="list-style-type: none"> 1) ウイルスの国内流入をできるだけ阻止する 2) 国内発生に備えて体制の整備を行う
戦略：
<ul style="list-style-type: none"> 1) ヒト—ヒト感染発生地への渡航自粛・航空機運航自粛などによりウイルス流入のリスクを軽減する 2) 感染地域からの入国者に対し健康調査・停留等の措置を行う 3) 国内発生に備え、サーベイランス強化・医療体制の整備を図る 4) プレパンデミックワクチン接種の検討などを行い、接種が適切であると判断した場合には積極的に接種を勧める 5) 海外発生国における継続的な情報収集および関係機関との情報共有をすすめる

【第二段階】 国内発生早期 （フェーズ 4 B、5 B）
目的：
<ul style="list-style-type: none"> 1) 国内での感染拡大のスピードをできる限り抑える 2) 大規模な感染拡大（フェーズ 6 B）発生に備えた体制の整備を行う
戦略：
<ul style="list-style-type: none"> 1) 地域住民全体への予防投薬や人の移動制限をともなう厳格な地域封じ込めの可否を

検討する

- 2) 早期発生例については接触者調査を行なった上で発症者は指定医療機関への隔離および早期の抗ウイルス薬投与を行なう
- 3) 接触者は自宅待機とした上で予防投薬も行ない、発症した場合には指定医療機関への受診を勧奨する
- 4) 発生した地域において学校の臨時休業、集会等の自粛、外出の自粛、個人防護の徹底の周知等を実施する

【第三段階】国内での感染拡大期（フェーズ6B）

目的：

- 1) 人的被害（感染者数や死者数）を最小限に抑える
- 2) 第1波の感染者数を最小限に抑えワクチン製造等を進める
- 3) 医療・社会機能への影響を最小限に抑える

戦略：

- 1) 発症者は原則として自宅隔離とし、電話相談などで医療機関受診の必要性を判断する
- 3) 地域での公衆衛生対策は継続して行なう
- 4) パンデミックワクチンの開発・製造を積極的に進めていく。安全性・有効性が確認され次第接種を実施する

【第四段階】社会機能回復期（後パンデミック期）

目的：

- 1) 大流行後の社会機能を速やかに回復させる
- 2) これまで実施した対策について評価を行い、次期流行に備えた対策を実施する

戦略：

- 1) これまでの実施対策を段階的に縮小させる
- 2) 行動計画やガイドライン等の見直しを行い、必要な対策を実施する